

前号でトランペットステーションの亀谷氏から「パートでまとめてBSC(プラス・サウンド・クリエイション)を吹く、という実験をしてみたら?」という提案を受けた本誌編集部。さっそく喇叭をたずさえ、いざ出動!チョイスしたのは「ミレニアム」。BSCの中では最も手ごろな価格ながら、多くのユーザーから実力はひとクラス上、という評判を得ているモデルだ。やってきたのは千葉県市川市…

Best Sound Club へようこそ

第2回

パート全体で 「ミレニアム」を 鳴らしてみる



窓下でまず、試してみる



「なにそれ?」仲間も興味津々である

全国レベルの「族」な地域で

千葉県は、全国でも有数の吹奏楽が盛んな地域である。吹奏楽と野球(高校野球)の深い関係についてはいまさら触れるまでもないけれど、かつては銚子商業、今では市立習志野、という甲子園の強豪はそのまま普門館の強豪でもあった。市立習志野は今でも両方でその勇名を全国にとどろかせているが、同じ「市立」つながりでは、市立船橋高校はサッカーや陸上で有名で、さらに同校は吹奏楽においても「全国」レベルの実力をもっていることでも有名である。それら名門からの出身者たちは県内アマチュアバンドに流れ、全国的に見てももっとも古い歴史をもつ船橋吹奏楽団、また、アマチュアとして初めてコンクール全国大会5回連続出場(当時はいわゆる「5金制度、つまり5回まで連続出場が可能だった」という金字塔をもつ市川交響吹奏楽団や、同様に精力的な活動を続ける習

志野ウインドオーケストラなどなど(書ききれない!)、学生から一般まで幅広い年齢層の楽器族がひしめく、きわめて「族」っぽい地域なのだ。

その「族」な地域の中で活動するア

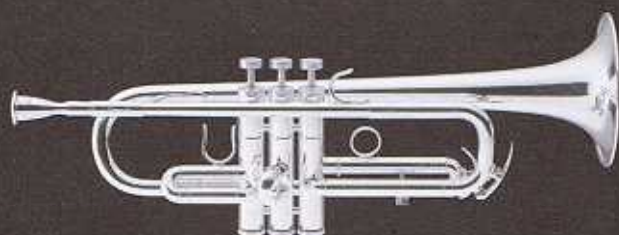


BSC

Brass Sound Creation

from Luxembourg

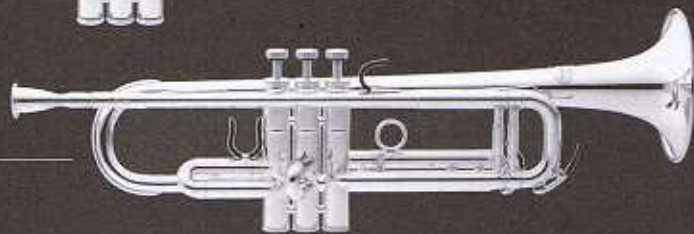
- TR-501G "WM"
¥703,500 (税込) <ケース付> 仕上げ: シルク24K塗メッキ
- TR-303S "シンフォニー"
¥417,900 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-206S "オールラウンド"
¥302,400 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-106S "ニューヨーク"
¥260,400 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-105S "ミレニアム"
¥207,900 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-C01S "アルマンド" <C管>
¥448,350 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ



TR-303S

"シンフォニー"

※マウスピースは付属していません



TR-C01S

"アルマンド" <C管>

マチュア吹奏楽団に「アンサンブル市川」という集団がある。1999年に発足した同楽団は、歴史的にみれば古豪ひめく千葉県にあつては若造(失礼)なのだが、構成人員はさまざまにバンドを歴任してきた経験豊富なベテランが多く、全国的に有名な某サクソ四重奏団のメンバーのひとりとは若き日に彼らから薫陶を受け、今でも深い交流が続いている、という。そんな「フレッシュなベテラン」そろいのバンドで、BSC「ミレニアム」はどういう評価を受けるだろうか?

もっと広い会場で 鳴らしてみたくありませんか!

今ではよく知られていることだが、BSCは管楽器の本場ドイツで修



行した日本人Tomomi Kato氏がハンドメイドで世に送り出し、かのウィントン・マルサリスやミュンヘンフィル首席のクリングラー、ベルリンフィル首席のヴェレンセイなどなど、内外のプロフェッショナルたちから高い評価を得ているブランド。欧米のオーケストラでも高い評価を得ているBSCは、「平成」になってから立ち上がった日本ゆかりの「世界標準」でもある。

「面白いスタイルなんですね…」
アンサンブル市川(メンバーのみなさんは「ぶるいち」という愛称で呼んでいる。以降、本稿もそれに習います)の首席トランペット奏者、漆原さんはケースをあけるなり、BSC独特のスタイルをみてそう呟く。やはり、つば抜きや指かけ部分に装備された「フィッシュテール」(魚の尻尾状の切れ込みのある樹脂製カバー)や、ベルU字管部分に装着された「背骨」(ヴィンテージの楽器にはよく見られる構造)、そして、ヘヴィタイプではないにもかかわらず厚いヴァルヴのボタンやベル部のメダルなどなど…誰もが興味をひかれるその構造に関心を見せつつ、さっそく息を通してみる。

「!!」
ちょっと面白いのかも?という表情を見せる漆原さん。洗足学園大学で研鑽を積み、今ではフリーの奏者と

全員で「キャンディード」なかなか、いい響きだ。この日は、目前に迫ったコンサートで演奏する「ウエストサイドストーリー」シンフォニックダンスなどを集中練習。同バンドのコンサートでは入場制限を設けておらず(つまり3歳以下のお子様は…)というアレ、お子さん連れでもOK、というフレンドリーな姿勢がすばらしい
<http://www.bunif.com>



誰もが注目する「フィッシュテール」(つば抜きの先に注目)。その効用は明らかにされていないが、金管楽器を吹く人には、なんとなく「なにをやりたいか」が伝わってくる、不思議なデザイン…

して演奏や指導にいそむ彼女、普段愛用している楽器とはいささか息の通り方が違うのに戸惑いつつしばらく吹いてみて、
「これ、けっこう遠鳴りがしそうですね…」

と、一言。倍音成分が非常にきれいに整ったロングトーンが廊下に響く。ハイトーンでも音痩せしない、たくましくも美しいサウンドがすばらしい。遅れてやってきた仲間たちも異口同音に、その「抜け」鳴りのよさに注目する。しかし、いきなりいつもとは違う楽器を、ウォームアップもそこそこぱっと吹かされただけでは、「いいな」という気はするものの、その実力のすみずみまでを体感するまでには至らないようだ。

合奏が始まった。ちょうど、「ぶるいち」(…なんか、人の名前みたいですね)は6月27日に控えた定期演奏会直前。得意のアメリカンスタンダードな世界(バーンスタインものなどに挑戦中の彼らに「キャンディー

ド」でBSCを試していた。実際に粒のそろったきれいな鳴り方がすばらしい。

が、漆原さんがひとこと。

「毛布が邪魔ですね…」

練習会場には諸般の事情で毛布が敷き詰められている。それが音を吸い込み、広い反響空間をもった廊下での試奏の時と反応が異なるのに戸惑っているのだ。

「もっと広い会場で鳴らしてみたい…」

なるほど。また、他のメンバーは「吹くほどに魅力が増しますね…、いきなり本番、というのは怖い気もしますが(笑)でも、その気にさせてくれます」

そう、彼らは来週、本番なのだった。しかし残念ながら、お持ちした楽器をそこまでお貸ししておくことはできない…うむ…では次回、早速別のバンドで、さまざまな広さの会場はどう感じるか、その違いを実験してみるとしよう。

箱

ヨーロッパのハンドメイドが培った完成度

ヨーロッパ発。オーケストラでもアンサンブルやソロでも、卓越した表現力と吹きやすさで、いま最も熱い視線を浴びるトランペット、それが「BSC」



あるメーカーの楽器を30年以上もの間使い続けてきたが、これを上回る楽器にはもう巡り合わないだろうと思っていた。ところが、ところが、ホント生きていて良かった!
BSCは「吹きやすい」とか「音程が良い」とかの次元ではない。とにかく「音楽しやすい」のだ。特に「音色が素晴らしい」。「柔らかくて力強く、ヨーロッパの品位が感じられる。」
百聞は一見に如かず。試してみることを是非お勧めしたい。

NHK交響楽団首席奏者 関山 幸弘



日本総輸入元

株式会社 **セレクト インターナショナル**

〒272-0836 市川市北国分1-8-2
e-mail : info@select-inter.com

TEL : 047-374-0792 FAX : 047-372-2704
URL : <http://www.select-inter.com>

編集長C管 「アルマンド」 体験記

本誌編集長は、なんと分不相応にも30歳をすぎてから一念発起して独学でトランペットを吹き始めた、身の程知らずな無鉄砲なのである。「独学」…というのは聞こえはいいけれど、パソコンでもなんでもひとりよがりよくドツボにはまり、無駄に悩むことが多い。とにかくそれでもかまわず「なんでも見てやろう、という、小田実精神(注)が大切なんだよ」とうそぶく昭和生まれなのである。その旺盛な好奇心にBSCがつかまってしまった。「アルマンドっていうC管、なんかかっこいいじゃない。今度貸してもらってよ」と、強引に担当者を押して借りてしまった編集長、なにをやるかと思いきや、なんとそれを手に、最近懇意にしている某管弦楽団にのりこんだ(もちろん練習会場のみ)。編集長、C管なんて吹けるんですか? 「あつたりめえよ(吹いてみて)すげえ、チョー楽じゃん」…半世紀以上生きてきて「チョー」とか使うのはどうかと思うのだが、



「●●(あえて名を秘す)だとさあ、上の実音EとかAとか音程とれないのに」…それはご自分の腕も問題なのでは…痛い(ぶたれた)。「どうした? 居たい? 居たきゃあ居ろ。とにかく、これ(アルマンド)だとすげー楽。C譜がそのまんな指使いでイケやがんの。不思議なことに、B♭管と持ち替えた時の吹奏感にあまり差がない…というか、ほとんど同じ。たまにC管吹かせてもらおうと、音色が明るいのはいいんだけど、音程が明後日のほうに飛んでいっちゃうことが多くて…まあ、それは俺がへたく

そなせいもあるんだけどね…でもなによりこれ、音色がいいよ!音が柔らかい。この音色、すっごく好き。内緒だけどB♭管より好きかも。C管が細くてきらびやか、というのはやっぱり誤解だね。もちろん調性による全体の感じの違いってのはアルマンドだけ、それとこれとは別次元。あと、ピストンボタンがすごくいい。見かけ、ヘヴィに思えるけれど、このタッチがいいなあ…バラードとか、いけるんじゃない? いや、C管としては変な使い方もかもしれないけれど、そりゃそう見る世間の方が変なんで

あってね、もともとC管は単に指使いの利便性のために選択される場合が多かったんで、明るいイコールC管ってのは大勘違いと思うんだなこれが…」…すみません、音は上品に鳴っていたんですが、口調が下品で。そのまま載せろ、と、編集長権限をふりかざすもんですから、あえてしゃべったまま載せません。品格も何もあったもんじゃないが、確かに「水上の音楽」なんかをしっかりと、きれいに吹いていたのは事実です。

注 小田実氏は、昭和文壇に大きな軌跡を残した文学者。「なんでも見てやろう」は一大ベストセラーとなった



はじめての
マッピに最適
…as your 1st mouthpiece

as(エーエス)
トランペット・ホルネット
1-1/2C, 3C, 5C, 7C, 10 1/2C 各 ¥4,200(税込)

口の中に入れる木管楽器ほどではないにしても、やはり金管楽器のマウスピースだって「きれい」なのにこしたことはない。リムの表面がザラついているのも、ぞっとしちゃいますよね。まあ、あのファーガソンは若き日に、ハイトーン出すためにマッピのリムをアスファルトの歩道でがりがり削って荒くして吹いた…という伝説があるけれど、よい子は真似してはいけません。それに、中古楽器には「マウスピースなし」というケースもよくある。そんなときにちょうどいいマウスピースが登場しました。ドイツ製「as」(エーエス、と読みます)ブランドのマウスピースは、なじみやすぐわかりやすい「定番」のサイズがばっちりそろっています。

クラシック奏者に好まれる1番から、ビッグバンドやスタジオミュージシャン御用達の10ハーフCまで、標準的な「番手」が全部そろっています。バラツキのない緻密な造りは、さすがドイツ製。銀メッキも15ミクロン(たいていの一般銀製品は05ミクロンが標準のこと)と、充分厚い。そう、全体の重量もしっかり「持ち重り」のする、頼りがいのある数値で安定しています(つまり個体差が少ないということ)。だから、鳴りもしっかりしています。初めて金管楽器を吹く際に、最初からマイマウスピースでスタートできたら…きっとそれからの楽器生活は楽しくなるに違いありません。そんな「楽器生活応援隊」な、頼もしいマウスピースなのです。